

# 平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立中京もえぎ幼稚園)

## 1 平成26年度 重点評価項目

1. 確かな学力の育成(自分で考え行動する主体的な子ども)
2. 豊かな心の育成(自己発揮しながら仲間と共に協調する心豊かな人間性)
3. 健やかな体の育成(たくましく生きるための健康や体力)

## 2 1回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定				・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理		自己評価		学校関係者評価		
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	評価日	平成26年10月24日	評価日	平成26年10月27日
							評価者・組織	学校評価委員	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
1 確かな学力	充実した遊び	・遊びの充実を目指した環境構成の充実 ・全ての教員の研究保育	・一人一人の幼児の遊び姿の変容 ・幼稚園を楽しんでいますか ・幼稚園には楽しく通う雰囲気がある	「そう思う」保護者の割合100%	⇒	・研究指定により進めている研究や研究保育などから遊びが充実し、子どもたちも楽しんで幼稚園に来ている。 ・言語活動の充実の素地となる自分の思いを伝えようとする力が、幼稚園や教師との信頼関係を築くことで育ってきている。 ・読書についてはそれぞれの家庭の事情などにより、取組方や意識に差がある。	・発達の個人差の大きい幼児期の発達の特徴をさらに細かく捉え、よりどの子どもが楽しめる環境を整えていく。 読書については量や時間にかかわらず、親子での時間や大事にすることが、子どもたちにとっては大切なことであることを丁寧に伝えていく。	⇒	・教職員が一人一人の子どもたちの発達や性格を把握し、心により添つている姿を見る。子どもたちも自分の思いをさらに出していくと思われる。	・子どもの意見が尊重される保育がなされている。子どもたちも先生に支えられながら少しずつ成長していくであろう ・子どもが思いを伝えようとしているときの大人の対応が子どもの主体性の育成に大きいかわる。人数が多いので一時にならった時の対応の仕方が大事になってくるであろう ・読み聞かせボランティアの方による読み聞かせや絵本室の整備など、引き続き行っていく
	自分の思いを身近な人に伝えようとする力の育成	子どもが自ら思いを出そうとする教師のかかわりの実践	・家族や先生など身近な人に自分の気持ちを伝えようとしていますか ・教職員は子どもの思いに耳を傾けようとしていると思いますか	「そう思う」保護者の割合98%		⇒	・さらに子どもたちの自律性を育む教師の援助について研究を進めていく。 ・子どもたちにとってどのような経験が大事なのかを今一度考え、行事や遊びについて再考していく。	⇒	・集団の中での様め事に対して、教師が丁寧にかかわることで、相手の気持ちに気づき、お互いが気持ちよく遊びにはどうしたらよいかなど遊びの中で身につけてきていく。	・様々な子どもたちの遊びが充実するように地域の人材を生かし、支援していく。
	読書の習慣化	・保育中の絵本の読み聞かせについての充実と保護者の伝達 ・読書ノートや絵本貸出を活用した親子読書の取組	・読書ノートの活用 ・親子で読書の機会をもっていますか	「そう思う」保護者の割合97% 読書ノートの取組方は家庭によって様々である		⇒	・基本的生活習慣に対する家庭の意識に差がある。大事だと思っているが、難しいのか、意識が薄いのか、その思いをもう少し聞く必要がある。 ・体を動かして遊ぶことを楽しむ遊びに対する興味は、個人差がある。	⇒	・運動会を通して体を動かす楽しさを感じている。また、園外保育なども体力作りにつながっていると思われる。 ・体力だけでなく、精神力も共に育まれていることを感じる。	・公園の利用などで、地域にも活力が生まれる。さらに、幼稚園の利用を望むとともに、公園の整備などに協力していく。 ・基本的生活習慣の確立にいってはやはり家庭でのかかわりが大きいと思われる。そのことを繰り返し保護者に伝えることが必要であろう。
2 豊かな心	様々なことに意欲をもって取り組もうとする態度の育成	・様々なことに意欲をもって取り組もうとする態度の育成 ・友達とかかわりながら自己発揮する自律性の育成	・様々なことに意欲をもっていますか ・幼稚園には自ら遊びたくなる環境が整っていますか	「そう思う」保護者の割合97%	⇒	⇒	・保護者はわが子の様子をもっと知りたく、担任や教職員と話すことを求めている。 ・預かり保育や園庭開放など、ニーズに合わせた子育て支援の場を提供できている。 ・保幼小連携は研究プロジェクトの3年目になり充実してきている。	⇒	・毎日のホームページが更新されており、また、毎月の地域版の幼稚園などにより、幼稚園の様子がよくわかる ・ホワイトボードを利用しての情報発信など、連絡事項等も細かく伝わってくる。 ・保護者の方も受け身でない意識が必要とも思われる。	・パパ・ママティチャーの取組を生かし、さらなる活用を呼び掛けていく。 ・年長児のお迎えの場所を今後検討できればと思う。 ・教員が忙しすぎるということも耳にする。降園などを利用し、保護者との交流する時間を多くする方策を考えはどう
	健やかな体	基本的生活習慣の確立	・早寝・早起き、朝ごはんの大切さについての保護者啓発 ・自分のことを自分で喜びを感じ自信となり自立へ向かうための教師の援助の充実	「そう思う」の保護者の割合95%		⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
3 独自の取組	体を動かす遊びを楽しむ意欲の育成	・遊びを通して体を動かす楽しさを感じることが出来る環境の充実	・体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか	「そう思う」の保護者の割合97%	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	情報発信の充実	・ホームページの更新 ・幼稚園の充実 ・パパ・ママティチャーの取組	・教職員に放しやすい雰囲気がありますか ・幼稚園の遊びの様子がわかりますか	「そう思う」の保護者の割合94%		⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	子育て支援の推進	・預かり保育の充実 ・園庭開放の実施 ・未就園児親子への教育相談の取組	・預かり保育に関するアンケート ・園庭開放の参加人数 ・教育相談への参加人数	「4・5歳児のほぼ全員が預かり保育を一度は利用している。3歳児も利用者が増えている。 ・園庭も毎日残って遊ぶ親子が多い。 ・未就園児教育相談は平均20組程度の親子の参加がある。 ・保幼小交流会を通して子どもの心の成長の連続性について教員間で共通理解ができた	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
4 保幼小連携の充実	・子どもみらい館保幼小連携プロジェクトでの研修	・交流会についての事前研、事後研、エピソード研修 ・研修会を通しての子どもの姿の変容や教師の学び	・	・	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒